

文体の特徴を研究し、故人の新作を創る

国語班: 浅原 寧音、南 航太

Abstract

The purpose of this study is to study the writing style of a writer who has already passed away and to write a novel that is so close to the subject's that it can be called a "new work" by that writer. For this study, we chose Shinichi Hoshi as the subject.

First, we extracted characteristics from Hoshi's works and classified them into two categories: stylistic characteristics and content characteristics. Next, we wrote a novel incorporating these characteristics, mixed it with Hoshi's novel, had several people read it, and asked them which one they thought was ours.

As a result, we came to the conclusion that it is quite possible to write new works by the deceased.

要約

本研究の目的は、既に他界している作家の文体を研究し、その作家の「新作」と言えるほどに、対象のものに近い小説を書くことである。今回はその対象を星新一とした。

まず星の作品から特徴を抜き出し、それらを文体的特徴と内容的特徴の2つに分類した。次にそれらの特徴を盛り込んだ作品を書き、星新一のものと混ぜて複数人に読んでもらい、どれが我々のものだと思うか、アンケートをとった。

その結果、故人の新作を書くことは十分可能である、という結論に達した。

1. はじめに

作家にはそれぞれの文体があり、その特徴は他者と一致することはまずない。そこで、作家の文体を再現し、また、本人の発想を真似た内容で物語を創作すれば、すでに他界している作家の新しい作品を読むことができるのではないかと考えた。今回は、作品数が多く、一篇が短い星新一を対象に、文体を模写するメソッドを研究した。

2. 研究手法

星新一の作品を読み込み、その特徴を抜き出した。その後、それらの特徴を文体と内容の二つの角度から考察した。

その結果、文体面では、三人称を使用し、人を指し示す固有名詞が使われない、漢字の使用が極端に少ない、という特徴が見出せた。

また、内容面では、普通物語では四段構成の「起承転結」が使われるが、星新一作品では、この発展系の「起転転結」が用いられていることが分かった。

「起転転結」では、物語が始まるとすぐに事件が勃発し(起・転1)、続いて一つ目の事件を超える出来事が起こる(転2)。そして最後にそれらがあっさり解決する(結)。

これらの特徴を元にして作品を創った。

《実験》

上記の特徴を踏まえて我々が書いた三篇と、星新一本人の作品二篇を、作者を伏せた状態で読んでもらい、星新一が書いたものだと思う作品を選ぶアンケートをとった。

3. 結果

《実験》

星新一本人の作品を選んだ回答が56.5%、39.1%と最も多かった。また、最も正答率が高かった回答者(我々が書いた作品を選んでくれた人)は最も星の作品を読んでいる人であった。

4. 考察

《実験》より、星の作品を読みこみ特徴を抜き出せば、本人の作品にかなり近い作品が書けるが、物語の発想そのものを再現することは難しかった。しかし、アンケート上では我々が書いた作品を星のものだと思った、という回答が多く見られた。

5. 結論

考察から、文体を再現し、本人の発想を真似た内容で物語を作れば、すでに他界している作家の新作を創作することができると考えた。展望として、星に精通した人物に我々が書いた作品を読んでもらい、どのような結果が得られるのか調べたり、星以外の作家でも文体模写を行いたい。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

ようこそ地球さん／新潮社／1961.08 悪魔のいる天国／中央公論社／1961.12 マイ国家／新潮社（新潮小説文庫）／1968.07 未来いそっふ／新潮社／1971.04 ボッコちゃん／新潮社（新潮文庫）／1971.05 きまぐれロボット／理論社／1999.01 すべて星新一の著書である。